

＜第 20 回 震災対策技術展＞

災害情報の最前線！

第 20 回「震災対策技術展」が 2 月 4 日～5 日の 2 日間、パシフィコ横浜で開催された。

東日本大震災から 5 年目を迎えた今年は、震災対策展 20 周年記念シンポジウム「巨大災害の備え—社会・技術・人—」が開催されるなど 223 の団体・企業が出展、2 日間の来場者数は 16,067 名(昨年 15,039 名)となり、過去最高を記録した。同時にシンポジウム・セミナー、出展者によるプレゼンテーションも多数開催された。



写真 1：シンポジウム会場

REIC では、今年も展示会場にブースを出すとともに、パシフィコ横浜アネックスホールにて、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）との共催で「第 15 回・国土セイフティネットシンポジウム」を企画・開催した。今年のテーマは「災害情報の最前線！」。副題は「～今！災害への備えは、未来の安全対策です～」。事前申込者が 188 名と満席になったのは、これまでで初めてのことである。

シンポジウムは、防災科研理事 米倉 実 氏の開会挨拶、文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室・室長 松室 寛治 氏の来賓挨拶で始まった。（写真 2）

写真 2：来賓挨拶（文科省 松室氏）

基調講演は、防災科研 レジリエント防災・減災研究推進センタープロジェクトディレクター 白田 祐一郎 氏による「災害情報の共有・利活用の最前線」で、災害に強い社会の実現のためには、専門的・経験的な「知の統合活用」と、個人・組織・機関同士の「協働」が不可欠であり、これまでの事例の紹介と、今後の課題についての講演であった。（写真 3）



続いて防災科研 観測・予測領域 地震・火山ユニット副ユニット長 棚田 俊收 氏より「最近の火山活動」という題目で講演、御嶽山や箱根山等の噴火で観測されたデータ等をもとに、観測から解ること、解らないことについて解説が行われた。講演の終わりに「富士山がいつ噴火する、というような情報は全て嘘です」と言われたのが印象的であった。

写真 3：基調講演（防災科研 白田氏）

工学院大学 建築学部まちづくり学科 教授 久田 嘉章 氏は「首都直下地震への備え」というテーマで、今後 30 年で 70% の確率で発生すると言われている首都直下地震に備えるため実践的な震災対策として何ができるかを認識が重要である内容の講演であった。

防災科研 社会防災システム研究領域 災害リスクユニット研究員水井 良暢 氏からは「災害被災地対応の最前線」ということで、昨年の鬼怒川氾濫時の茨城県常総市の広域水害対応について、実際の現場での復旧活動体験に基づく内容であった。

最後の講演は、国立保健医療科学院 健康危機管理研究部長 金谷 泰宏 氏から「災害医療の最前線」という題目で、災害医療の現場で今起きていることについて、現場では情報の共有が大変大事であり、これまでの事例における課題と、現在進められている SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) による情報共有の取り組みについての講演であった。

閉会の挨拶は REIC の早山会長により、本日の講演に関する御礼と感想、および今後の REIC の活動方針を紹介した。

展示ブースでは「情報が命を救う」をコンセプトに、緊急津波避難情報システムの社会実験における報道並びにシステムの紹介ビデオ、緊急地震速報における警報と予報のパネル展示およびデモンストレーションと、アンケートによる来場者情報収集やリアルタイム防災情報の開発・提供・発信に注力する REIC の活動を紹介した。(写真 4,5)



写真 4 : 展示ブース



写真 5 : 展示ブース

なお、「国土セイフティネットシンポジウム（第 15 回）」のプログラムは次ページに掲載。

第 15 回 国土セイフティネットシンポジウム
災害情報の最前線！
～今！災害への備えは、未来の安全対策です～

プログラム

(1) 開会の挨拶 米倉 実 防災科学技術研究所 理事

(2) 来賓の挨拶 松室 寛治 文部科学省研究開発局 地震・防災研究課
防災科学技術推進室長

(3) 基調講演「災害情報の共有・利活用の最前線」

～災害種別、防災フェーズ、機関・組織の枠を超えて～
臼田 裕一郎 防災科学技術研究所 レジリエント防災・減災研究推進センター
プロジェクトディレクター

(4) 「最近の火山活動」

～火山被害への備えに、必要な情報とは～
棚田 俊收 防災科学技術研究所 観測・予測研究領域 地震・火山研究副ユニット長

(5) 「首都直下地震への備え」

～災害に備え、今すべきこととは～
久田 嘉章 工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授

(6) 「災害被災地対応の最前線」

～鬼怒川氾濫、茨城県常総市の広域水害対応～
水井 良暢 防災科学技術研究所 社会防災システム研究領域
災害リスク研究ユニット 研究員

(7) 「災害医療の最前線」

～災害医療の現場で起きていること～
金谷 泰宏 国立保健医療科学院健康危機管理研究部 部長
東京工業大学連携教授

(8) 閉会の挨拶 早山 徹 リアルタイム地震・防災情報利用協議会 会長